

『日本橋地域における水辺空間を活かしたまちづくり』 に向けた提言 <概要版>



将来の日本橋イメージ

CG提供：日本橋地域ルネッサンス 100 年計画委員会



現在の日本橋



昭和 14 年の日本橋

資料：中央区立京橋図書館所蔵

日本橋再生推進協議会 水辺再生研究会

<はじめに>

日本橋地域が魅力あふれる都市として持続的に発展していくためには、都市化の進展とともに人々の生活との関わりが薄れてしまった河川空間を本来の望ましい水辺環境に再生し、江戸以来の水の都として発展したこのまちの景観を取り戻していくことが重要です。そのためには、水辺と川沿いのまちづくりが一体となった取り組みが必要となります。

今回作成した提案書は、日本橋再生推進協議会の専門部会である「水辺再生研究会」において、日本橋地域を流れる各河川の中から、特に当地域のまちづくりに大きな影響を与える日本橋川を象徴的に取り上げ、課題や将来のまちづくりのイメージについて検討し、とりまとめたものです。

今後は、本提案内容を活用しながら、地域の中でより議論を深め、地元が行政と一体となって「水辺の再生及び水辺空間を活用したまちづくり」を具体化し、推進していく必要があります。

本冊子はその内容を広く紹介できるよう、概要版として作成したものです。

平成 20 年 12 月

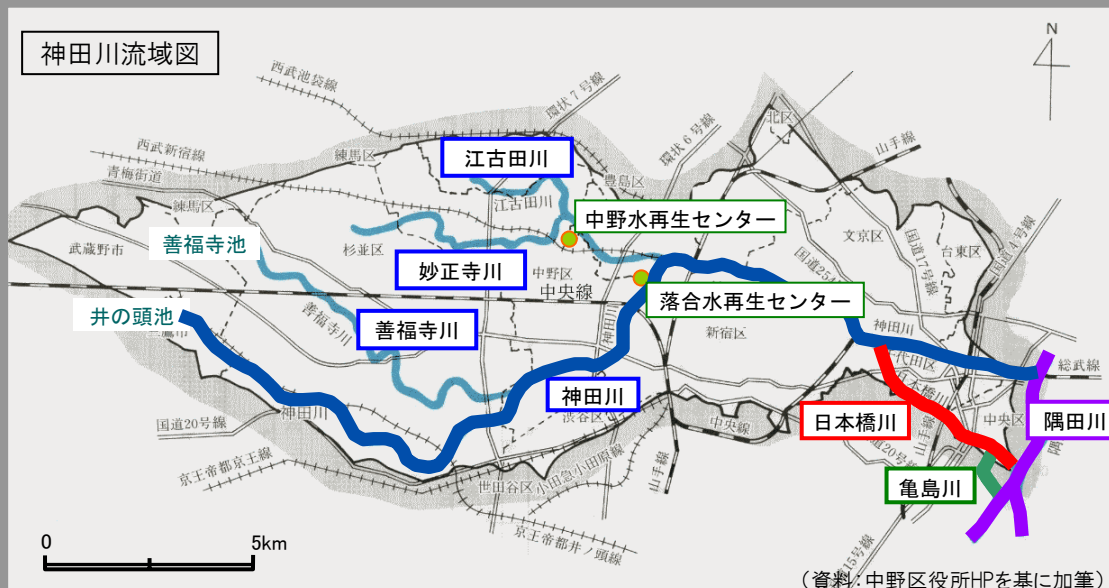
日本橋再生推進協議会 水辺再生研究会
会長 山本 泰人

○日本橋川・神田川・亀島川・隅田川の概要

日本橋川は、井の頭公園内の井の頭池に源を発する神田川の支流です。小石川橋で神田川から分流し千代田区及び中央区を流れ隅田川に注ぐ延長約4.8km の一級河川です。全区間が東京湾の干満の影響を受ける感潮域となっています。また、川の全長の大部分を首都高速道路が覆っています。

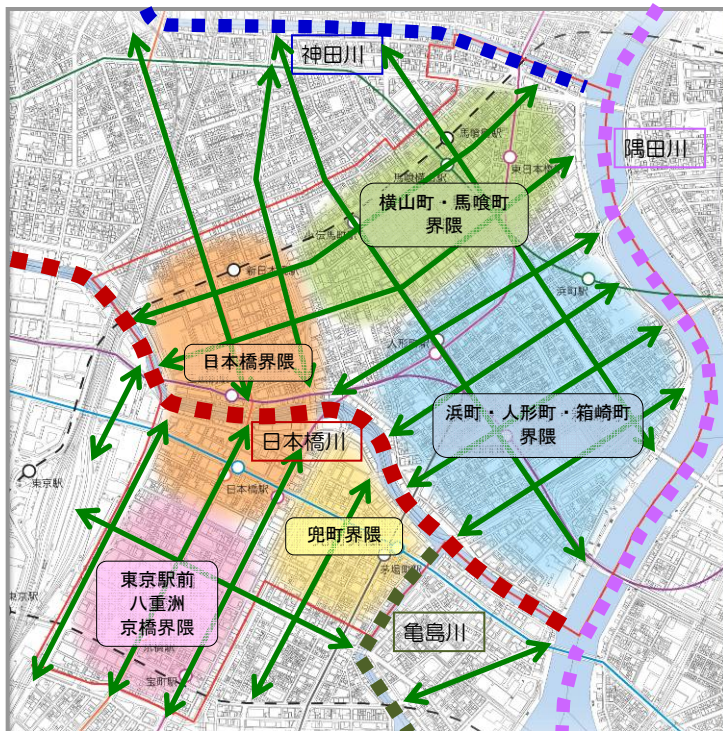
亀島川は、中央区の霊岸橋付近で日本橋川から分流し南へ流れ、中央大橋下流で隅田川に合流する延長約1Kmの一級河川です。

神田川下流部及び日本橋川の平常時の河川水量の約9割は、落合水再生センター・中野水再生センターからの再生水となっています。



○日本橋地域の特性について

＜江戸から続く文化、歴史、個性の溢れるまちの集積＞



地域の共有財産である4つの川と個性溢れる通り

【各地区の特性について】

- ◇横山町・馬喰町界限
～繊維問屋街を中心として発展するまち～
- ◇浜町・人形町・箱崎町界限
～下町情緒が息づく住商混在のまち～
- ◇日本橋界限
～歴史性と先進性を併せ持つまち～
- ◇兜町界限
～日本の金融・ビジネスの中心地～
- ◇東京駅前・八重洲・京橋界限
～東京の玄関口としての業務商業地～

(資料: 日本橋地域ルネッサンス 100 年計画委員会)

○現状の課題

＜まちづくり面の課題＞

- ① 水辺に回遊性が無く地域連携の妨げになっている。
- ② 水辺に歩行者空間など親水空間が無く、建物も川に背を向けて建っている。
- ③ 首都高速道路が上空を覆っているため、景観や環境が悪化している。

川に背を向けた建物と
上空を覆う首都高
(常盤橋付近)



親水性に欠ける
コンクリート護岸
(日本橋付近)



＜水質面の課題＞

- ① 窒素やリンの濃度が高いため、植物プランクトンやアオコ等が増殖・発生し、水質汚濁や悪臭の要因となっている。
- ② 大雨の際、合流式下水道から未処理水が直接川へ放流される。
- ③ 感潮域で塩水が滞留するため、溶存酸素量が低い。

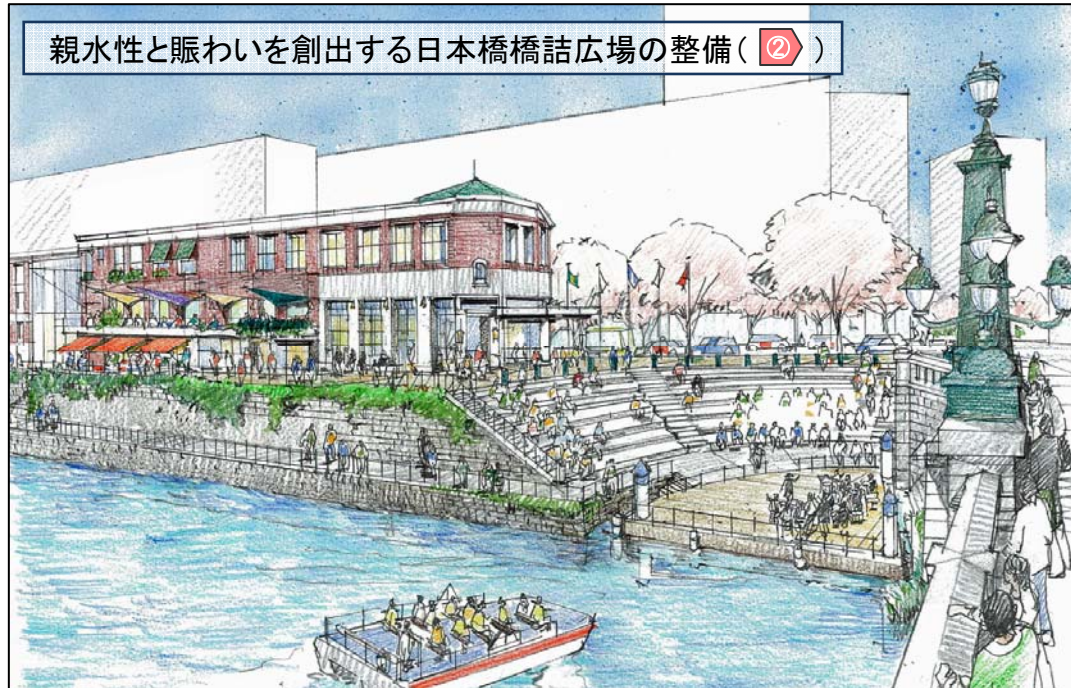
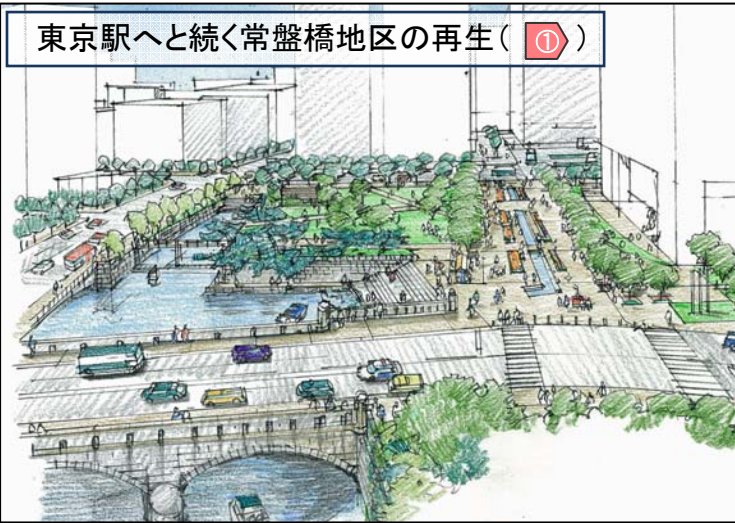
未処理水の流入
(神田川: 華水橋付近)



窒素・リンによる
アオコ等の発生
(日本橋)



日本橋川の水辺空間 将来イメージ



まちづくりのコンセプト

～世界に誇れる品格とにぎわいのあるまちづくりをめざして～

<残すもの>

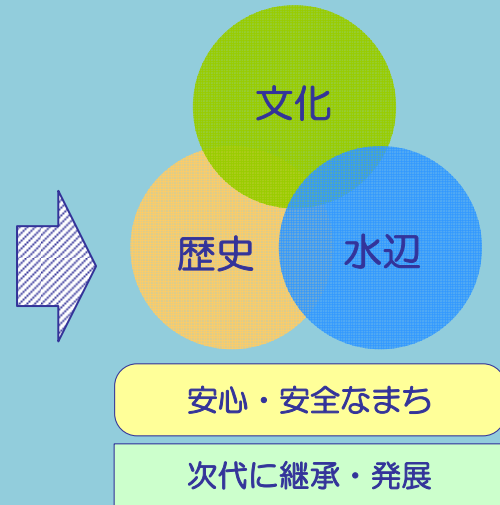
- ・歴史的資産
- ・地域の伝統・文化
- ・豊かなコミュニティ

<蘇らせるもの>

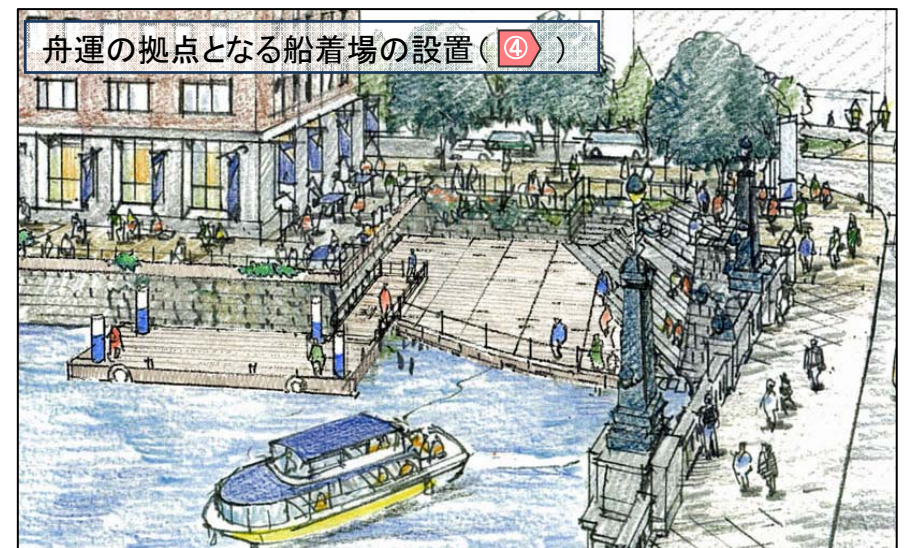
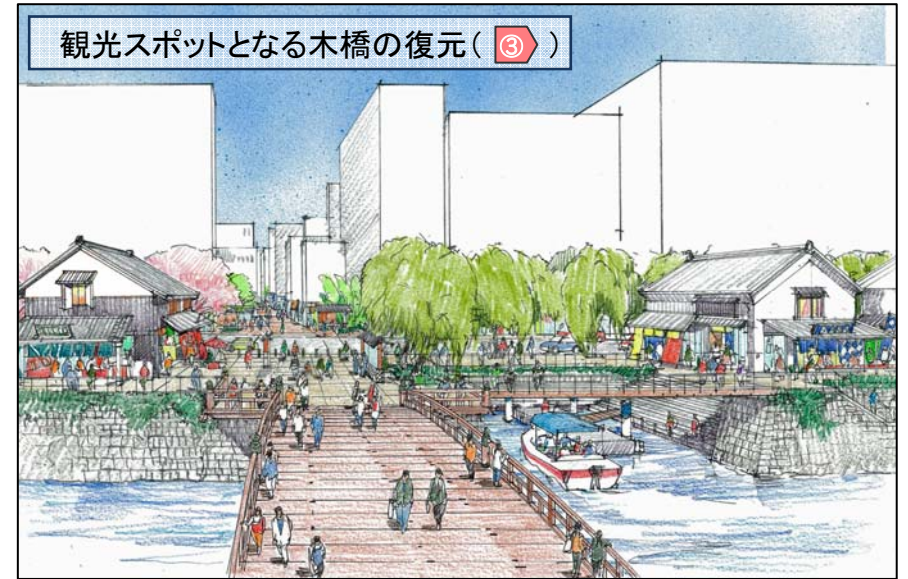
- ・水の都の復活
- ・首都東京の顔にふさわしい潤いと活気のある水辺空間
- ・都市活動と環境が調和したまち

<創るもの>

- ・世界に誇れる品格あるまちづくり
- ・水と緑の回廊で結ばれた地域の連携
- ・賑わいあふれる新たな交流空間
- ・安心・安全なまち（災害に強いまち）



江戸開府以来、水運により目覚ましい発展を遂げたまち“日本橋”
長年育まれた、歴史と伝統・文化を活かしながら、水辺の環境を整備し、
日本橋ならではの“川・人・まちの新しい関係”を構築し、それを次代に継承していく



文化 —本物を極めた日本橋文化の発信と進化—

● イベントの活性化(にぎわいの復活)



坂田藤十郎襲名披露
(平成18年1月)



日本橋橋洗い



イベント広場(徳島・新町川)

現在も「日本橋橋洗い」「日本橋・京橋まつり」「名橋日本橋まつり」など、さまざまなイベントが行われています。このようなイベントは、水辺に賑わいをもたらすとともに、まちを楽しく彩るきっかけとして重要です。今後、さらに水辺のイベントを活性化させるための施設整備や組織作りが望まれます。

● 魚河岸広場(江戸文化の継承・活気の復活)

現在は、日本橋のたもとの「記念碑」としてだけ残されている日本橋魚河岸を、気軽に立ち寄ることのできる魚河岸広場として再生し、まちの賑わい施設として活用していくことなどが考えられます。

大正初期の日本橋魚河岸



(資料:中央区立京橋図書館所蔵)



江戸市場(下関)

● 観光インフォメーションセンター設置(地域の魅力を伝える)



越後屋ステーション

来訪者への地図やガイドブックなどの提供、観光全般、ショッピングに関する最新の情報を提供するためのインフォメーションセンターの整備も、観光客の立ち寄り拠点施設として重要であると考えます。

- イベントスペース・ギャラリー
- 老舗(料亭・レストラン・工房など)を出店
- インターナショナルマーケット

歴史 —歴史的資産を活かす—

● 石積護岸を保存・再生する(歴史の継承)



文化財 史跡常磐橋門跡付近

現在の日本橋川は、ほとんどの区間の護岸が、高潮対策のためパラペット構造のコンクリート堤となっており、まちから水辺への視界を妨げているとともに、人工的で疎外感のある印象を与えるものとなっています。しかし、常磐橋付近など一部区間には、石積護岸も残されているため、これらは文化財として保存していくとともに、新たに改修する護岸についても、極力自然石を用いた構造とし、往時の日本橋の風景を次代に継承していくことが重要であると考えます。

● 木橋を復元する(江戸情緒の魅力アップ)

江戸時代に、歌川広重が東海道五十三次の起点として描いた「お江戸日本橋」を、歴史と伝統に彩られた日本橋地域のシンボリックな施設として現在に甦らせることも、歴史あるまちの魅力向上には重要であると考えます。



皇居平川門木橋



日本橋

(出典: 熙代勝覧 ベルリン国立アジア美術館所蔵)

● 日本橋からの眺望改善と日本橋を眺める場所の設置(視点場の確保)

古くから「お江戸日本橋」と言われ、1964年の東京オリンピックまでは首都東京の観光の目玉であった日本橋に、再び人々の目を向けるため、日本橋を望む視点場を整備することが望まれます。

- 旧常磐橋の修復保存・活用
- 常磐橋門の復元
- 歴史的建造物の意匠の継承

水 辺 ―水辺を楽しむための環境づくり―

● 水辺のプロムナードを設ける (回遊性の向上)

日本橋川の両岸には、連続した遊歩道等がなく、水辺を散策して楽しむことができません。そのため、日本橋川を活かしたまちづくりを実現するためには、二段式護岸等により、水辺に近づいて歩くことのできるプロムナードを整備することにより親水性を高め、まちとの連続性のある空間として整備することが望まれます。



愛河(台湾)

- 橋詰め広場
- 親水空間
- まちとのアクセス
- サクラ・クロマツ・ヤナギ並木
- 首都高速道路の撤去・移設
- 風の道



日本橋川「風の道」イメージ
提供:テレビ朝日・素敵な宇宙船地球号

● 緑豊かなオープンスペースをつくる(緑のネットワークを形成)

日本橋川を活かしたまちづくりとするためには、川に面して緑豊かで賑わいあるオープンスペースを創出する必要があります。

そのためには、河川整備とまちづくりを一体で行う新たな整備手法の導入や、人々が積極的に水辺に向かうようなアクセスの整備、護岸緑化、オープンカフェやレストラン等の賑わい施設を導入することなどが考えられます。



京橋川(広島)



護岸緑化イメージ(日本橋)

● 川辺にオープンカフェ・レストランの充実(川に顔を向ける)

川沿いに人が集い、賑わいを生み出す施設として、オープンカフェの設置などが重要です。



日本橋を望むテラス席を備えたレストラン(日本橋1丁目)

● 観光と防災に有効な船着場と舟運を整備する(川を利用したネットワークを形成)

かつての我が国では、舟運が発達し、川が都市の骨格を担っていました。その中心であった日本橋において舟運を復活させることは、人々と水辺との関わりを再び取り戻すためにも、早期の実施が望ましいといえます。

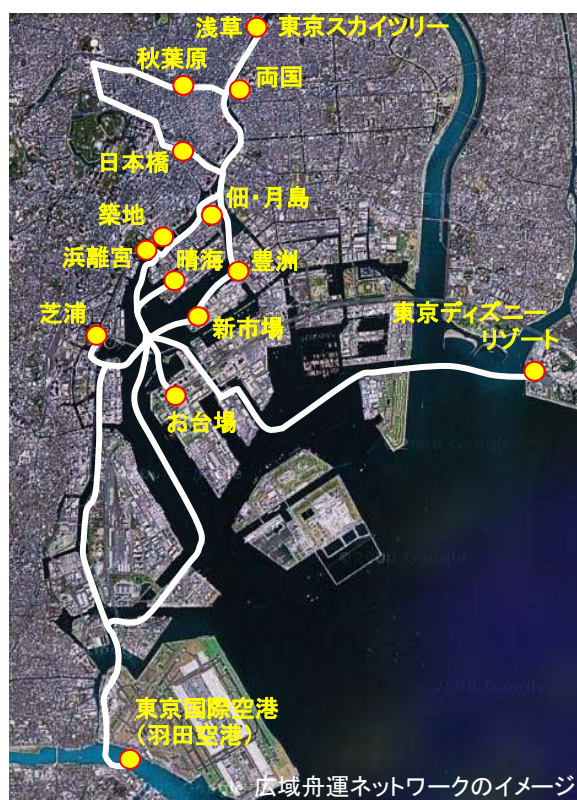
また観光面でも、日本橋を拠点とした舟運ネットワークで都内の観光拠点を結ぶことにより、より一層の観光振興を図ることが可能となります。



観光船(徳島・新町川)



水上タクシー(シドニー)



広域舟運ネットワークのイメージ



愛河(台湾)

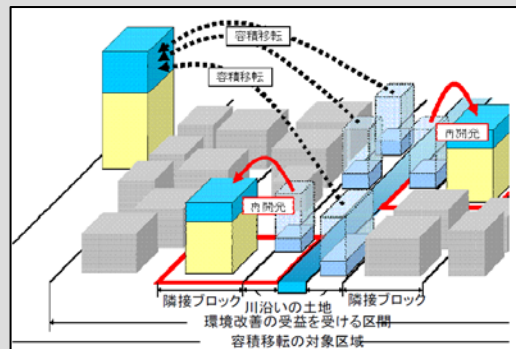
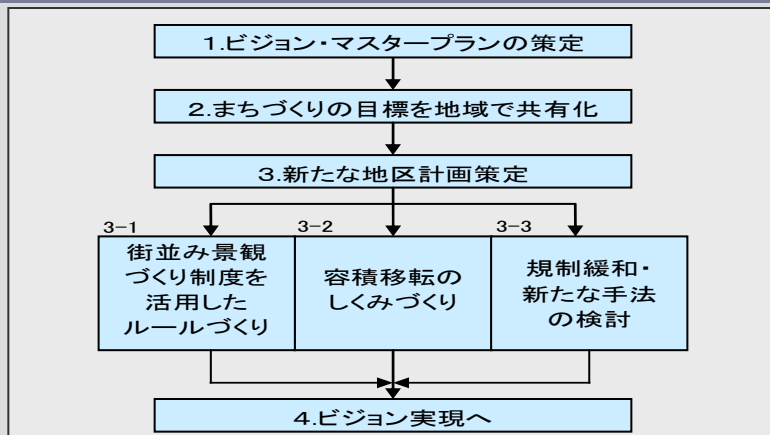


船着場イメージ(日本橋橋詰)

まちづくり実現に向けた課題

◇水辺再生に向けたまちづくりのための新たなルールづくり

当地区の水辺空間を活用したまちづくりを実現するためには、官民一体となってまちづくりビジョン・マスタープランを立案し、将来に向けたまちづくりの目標を地域で共有することが必要です。次に、新たな水辺街区の建て替えルールを定める地区計画の立案、街並み景観づくり制度を活用したルールづくり、容積移転のしくみづくりとこれを実現するための規制緩和や新たな手法・考え方の整理などが必要となります。



(資料: 日本橋地域から始まる新たな街づくりに向けて
平成18年9月 日本橋川に空を取り戻す会)

◇ 日本橋川をモデル事業とした、まちづくりの推進と広域展開による地域連携の強化 (広域のビジョン・マスタープランづくり)

日本橋川における水辺空間を活用したまちづくりをモデル事業として推進させることや、中央区内の他の河川やまちづくりに反映させながら、地区ごとの計画の立案、地域連携の強化を進めていくことが重要です。また、周辺地域との連携により、広域的な視点でまちづくりを展開することや、協力して課題を解決していくことが求められます。

◇水辺などの未利用エネルギーの利用による環境に配慮したまちづくり

河川水・地下水などの採用による低炭素化の実現や、日本橋川を「風の道」と位置付けることでヒートアイランド現象の抑制につなげるなど、環境に配慮したまちづくりが求められます。

◇複合的な水質改善策の推進

水質改善には、合流式下水道を分流式下水道へ切り替えることが抜本的な改善策であり、最も効果が高いと思われますが、その他にも、以下のような改善策を複合的にを行い、魅力ある水辺の再生を推進していくことが重要です。

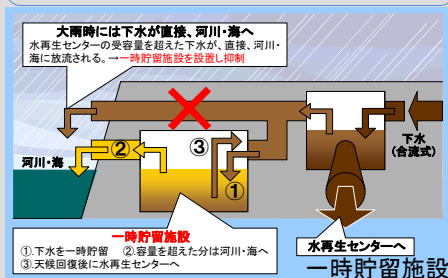
水質改善の抜本的対策

水再生センターの改善

- ・落合処理場の能力改善
→窒素、リンの処理能力を強化

合流改善施設の整備

- ・地下一時貯留施設の設置
→一時貯留することにより未処理水の流出を抑制
→まちづくりと一体整備



周辺との連携による改善策

流入源の水質改善

- ・外堀の水質改善
→外堀からのアオコの流入を抑制
水質浄化施設、水生植物除去、アオコの回収、浚渫

水循環の促進(流動促進)

- ・浄化用水導水、水門操作による流動促進
→きれいな水を導水、流動化促進



実施中の水質改善対策

実施中の対策

- ・底泥浚渫 <東京都による事業>
→川底に溜まった泥を除去
- ・微生物 <名橋日本橋保存会>
→EM菌などによる微生物分解
- ・河川清掃 <名橋日本橋保存会・日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会・常盤橋フォーラム>
→漂流したゴミの回収

